

# 顧客のニーズを汲み取り 最適な素材や製法を提案する

半導体装置メーカーからの依頼をメインに、工作機械や食品機械、医療機械、アミューズメント機械などの部品加工を手掛けてきた『九州明興』。1986年の創業以来、高品質・短納期・低価格で信頼と実績を蓄積してきた。本日は小松社長のもとを吉沢京子さんが訪問し、お話を伺った。

吉沢 まずは、小松社長の歩みからお聞かせ下さい。

小松 福岡県北九州市で生まれ、高校生までは広島県福山市で過ごしました。その後、大学進学を機に上京し、学業を終えてからは出版社に就職したのです。しばらくして職を辞し、福山に戻って『九州明興』の取引先である鋳造メーカーに転職し、愛知県や九州を担当していました。その後、紆余曲折を経て今から15年ほど前に当社に入社したんです。

吉沢 こちらは、どのような業務をメインにされているのですか。

小松 樹脂や金属でできた工作機械、食品機械、医療機械などの部品の製造を手掛けています。単純な部品は安くできますが、形状が複雑になると値段が高くなってしまいます。そこで金属なら鋳造で、樹脂なら射出成形して、精度が必要なところは機械加工を入れるなど、お客様のご要望に合わせた最適な製法をご提案させていただいています。

吉沢 そうした臨機応変な対応が、御社の強みであるかと？

小松 はい。メーカーなら製造方法は限られてしまいますが、当社ならお客様のニーズを探り、それぞれに合った手法を

提案できるのです。技術を提供するという一方で、私共の役割は「技術営業」であると自負しています。また、当社では常にお客様の立場に立ち、部品を調達される際に、何が最も必要とされているのかを考えた上で行動していることも強みでしょう。当社は長年技術の研鑽に励み、あらゆる金属や樹脂の加工を手掛けてきました。そうして蓄積されたものが、迅速かつ低コストで高精度な製品づくりを実現しているのですよ。

吉沢 お話からは、御社の技術力の高さが窺えます。ちなみに、こちらの会社は、ご創業から何年ぐらいになるのですか。

小松 28年になります。元々は大阪に本社を置くフッ素樹脂の成形・加工専門メーカーである『明興工業』の九州営業所で、1986年に別法人として設立されました。現会長が創業者なのですが、会長には後継者がいらっしゃらなくて、2013年の4月に交代のお話があり、二代目として引き継がせていただくことになりました。会長を含めて8名という小さな規模の会社ですが、経営者としての責任は重大ですから、健康には特に気を付けるようになりましたね。

吉沢 お話も尽きませんが、最後に、今後の夢や展望をお聞かせ下さい。

小松 現在は福岡の本社だけなので、今後はまず緑のある福山に支社を出したいですね。その後は熊本や大阪、東京などにも支社をつくり、営業範囲を広げていければと思っています。

(2014年12月取材)

代表取締役社長

小松 浩三

インタビュアー  
吉沢 京子

スーパーエンジニアリング  
プラスチック

九州明興 株式会社

【本社】福岡県福岡市東区松田3丁目1-19

TEL 092-626-7500 (代)

URL : <http://www.kyushu-meiko.co.jp>

